

高瀬善治同窓会会長 今日は先ほど校長先生からお話がありましたように、野球の話になりますが1回戦から決勝のような雰囲気試合が待っています。場所は県営吾妻球場で私も応援に行くつもりであります。時間の有る限り多くのみなさんに応援に行ってください聖光学院から勝利をいただきたいと思っております。また校舎の話になりますが、新しく校舎が完成しまして現在旧校舎の解体工事が行われております。それが9月に終了する予定になっております。皆様には新しい校舎を是非見ていただきたいと思い、同窓会主催で見学会を計画しております。校舎の作りがコンクリートから木に変えて柔らかさや温かみを醸し出しました。今後高校受験に校舎を見て勿来工業高校を選択する生徒がでてくると感じております。旧校舎は解体されますが約半世紀に渡って卒業生を世に送り出してきました。1600人のOB生がお世話になった校舎であって、いろいろな思いを感じながら解体作業を見守っているところであります。同窓会は5月に総会を終えて新年度を迎えております。今後開かれた同窓会を運営するためには、どのようにすればいいか模索しております。皆様の知恵をお借りしながら、地元のOB生を基本に方向性を導き出し新しい勿来工業には、優秀な人材育成を望んでいるところです。今後とも勿来工業高校が益々発展することを祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。

富樫要次様 本日は、深谷校長先生、荒川教頭先生、松崎教頭先生、寺島建築科長などたくさん参加していただきありがとうございます。今後とも皆さんお元気で頑張りましょう。

か ん ぼ ~ い

*****No.3幹事会*****

幹事会		平成27年10月21日(水) 18:00~20:00			
		いわき市労働福祉会館(3階会議室)			
嵐 繁雄 6	福富 大祐 7	千葉 良司 10	渡辺 久 11		
高原 典宏 14	四家 康正 21				



平成27年10月21日、幹事会が行われた。私が労働福祉会館に到着した時、高原事務局長が既にロビーのソファに座っていた。幹事会を前に私は高原さんと内容についての確認を行った。私は会館の係員から鍵を預かり、そして高原さんと二人で3階の会議室に移動した。幹事会は午後6時からになっている。幹事会の準備が整い、幹事を待っていると会議室のドアが開いて一人会員が入り、また一人入りと参加者は6人集まり、そして幹事会が開催された。会長が挨拶をした。「OB会は今年の総会を終えて運営方法が変わり、そして動き出しました。そのことも議題の一つに加えながら、幹事会を進めていきましょう。宜しくお願いします」との挨拶が終わると、総会の反省会が議題になった。高原さんが「来年から総会通知は全員に出しません。幹事のみのお知らせですが、約100名の幹事に電子メールで通知したいと考えています。100名分のハガキ代を節約したいと考えています」との提案に反対意見はなかった。次に親善ゴルフ大会が議題になった。昨年第1回を行って、今年10月時点で2回目の開催計画がなかったようだった。これは、ゴルフ担当者に確認することにした。次に新年会開催の日程を検討した。既に総会時に事業計画に盛り込んでいた。総会資料

から日程を確認して開催を確定した。最後に事務局だよりの作成について検討した。これは毎年総会案内の封筒に同封している。来年は総会案内を全員に出さないが、作成するかどうかを伺った。仮に作成した場合、読む機会が持てる人は総会に参加した会員だけになる。それでも作成を期待する意見が多かった。OB会のホームページにも掲載することにして、事務局だよりは次回も創刊することになった。以上で6人での幹事会が終了して、会館の向いにある「ぼっけもん」で懇親会を行った。

*****No.4新年会*****

新年会		平成28年2月6日(土) 17:00~19:30			
		ホテルミドリ(植田)			
富樫 要次様	榎田 常雄 1	鈴木 正吉 1	小林 仁 5		
福富 大祐 7	小野 真人 10	千葉 良司 10	渡辺 久 11		
高原 典宏 14	鈴木 忍 18	四家 康正 21			



いわき駅の夕方は曇りの空模様が植田駅に到着してプラットフォームに出ると地面が濡れていた。雨が降り始めたようだ。駅から傘を差して会場のホテルまで歩き始めた。気温が低く、傘を持つかじかんだ手をさらしながら、新年会が終わる頃は雪なのだろうか、まだ始まってもない新年会の帰路を心配しながらホテルに到着した。5時から始まる新年会にOBが徐々に集まり始めた。そこには、今年も富樫先生が来てくれた。出席予定者の半分以上が集まった時、ホテルの係員がOBを誘導して宴会場へ案内してくれた。今年は参加人数が少なかったため、奥の座敷が宴会場となった。床の間のある、ちょうど参加者の人数分が座れるくらいの広さの畳の部屋だ。高原事務局長が宴会費の集金をした。出席者は11名。全員が揃ったところで、高原さんが準備してきたレジュメに従い会が進められた。富樫会長が新年会の挨拶をする。次に高原さんが今年のOB会の行事と日程を読み上げ、みんなに確認してもらい事業の協力を呼びかけた。そしていよいよ新年会が始まった。乾杯は、ゲストで来ていただいた富樫先生が喉を枯らしながらも元気の声で音頭を取った。昨年6月の総会から7か月経過していた。参加者の顔触れに大きな変化はない。1回生は今年70歳。参加者で最年少が21回生で50歳。会場は少々若さに欠けた宴会となった。周りの話を聞いてみる。新年会でいつも話題になるのが、渡辺久さんのサンシャインマラソンの参加である。毎年、新年会の翌日にその行事が行われていた。しかし今年は、1週間後の日曜日に行われる予定となっている。その話を切り出すと、「今年は参加しません」という言葉が帰ってきた。これからはゆっくりと静かに生活をしたいと言った。聞くと病を抱えているようだった。そんな話をしていると、みんながそれぞれに病を抱えながら日々生活を送っていた。喉頭癌治療、前立腺癌術後通院、心臓カテーテル術後経過観察、痛風・糖尿病投薬治療などいろいろと飛び交う。折り返し点を通過すると待ち構えているものがある。大方避けては通れない到達点までの宿命なのだろうかと思うとやりきれない。1回生は毎年新年会を2人で出席している。1回生の鈴木さんの隣にすわっていたので談話をした。「今でも月に1回のサイクルで建築科の同級生4人が集まり、勿来を会場に飲み会をしている。生活費は年金、不足分は仕事で補っている。妻は既に他界し、娘家族と同居しているが自分のスペースが少ない。敷地内に離れがあるので、リフォームして1人で住もうと思っている。足が腫れ上がるほど痛風に苦しめられる。それでも日本酒やビールは飲む。」と話してくれた。その席を後

にして、1回生の榎田さんの席へ行き、お酌する。榎田さんは昨年まで働いていた。自分より9歳年長で、この年齢で働いていることに感銘していた。自分が70歳まで働けるのだろうかという未知の将来を心配しながら、それを今後の自分の見本にしていた。しかし、2か月前に引退したことが分かった。「引退してそれほど時間が経過していないので実感がないが、これからどんな生活が待っているのか分からない」と言っていた。実は計画とか目標が定まっていたのかもしれない。まだまだ話は尽きない。11名というまとまった参加者の新年会だったせいか、私は殆どのOB生と話ができた。中締めで榎田さんが挨拶をした。そして三々七拍子の拍手を打って景気を付け、二次会などへ移動した。ミドリホテルを出ると心配していた雪は降っていなかった。

*****No.5審査会*****

設計コンペ審査会		平成28年2月14日(日) 10:00~13:00			
		ノア・アーキテクト			
福富 大祐 7	千葉 良司 10	高原 典宏 14	四家 康正 21		



朝からの雨が小降りとなり、強めの風が吹くそんな空模様の中、鹿島街道ではサンシャインマラソンが開催されていた。レインコートを身にまといながら走るランナー達も見かける、毎年の開催が定着した行事だ。鹿島街道沿いにあるパレスいわやの近くに富樫会長の設計事務所がある。そこで設計コンペの審査会が行われた。午前10時にOB4名が集まり高原さんが学校から持参してきたA1サイズの作品をテーブルに広げた。33人分の作品の中から10名分を選出する作業が始まった。高原さんはここに持参する前に作品を見て自分なりに選出していたようだ。嵐さんが作品を写真データしてくれていた。私(千葉)は、そのデータをメールで送っていただき、前日までに自分なりに10名を選出してこの審査会に臨んだ。33枚の作品を1枚ずつめくり、入選させるものと外すものと振り分けた。残すもの12枚を選び、最優秀賞、優秀賞のグループ4点と佳作、特別賞のグループ6点に振り分けた。選出した12点から2点は振り落とされることになった。そして10点の入選が確定した。上位の作品を見ると、共通していることがある。それは大きな建物を計画しているということだ。大きな建物はそれなりにいろいろな設備や部屋が要求される。そんなことを生徒たちは学習しながらまとめ上げていった。その努力が作品に現れている。今年は更に完成度の高い作品が多かった。審査会が終わり作品を番号順に整理してケースに収め学校に返却できる準備が整った。お昼にはまだ時間があつた。OB会の今後の日程や内容の検討会をした。審査結果は2月29日に学校へ行って報告し、表彰式を行う。その時に出席できるOBを確認した。話し合いが終わり、富樫さんが準備してくれた味噌汁と弁当を食べてこの審査会を終了した。

*****No.6表彰式、入会式、昼食会*****

表彰式 入会式		平成28年2月29日(月) 12:00~13:30			
		勿来工業高校会議室			
福富大祐7	小野真人10	千葉良司10	高原典宏14	四家康正21	

平成28年2月29日に勿来工業高校へ行き卒業設計コンペ表彰式とOB会入会式及び昼食会を行いました。その模様を下記に記載して伝えたいと思います。これより勿来工業建築科OB会の卒業設計コンペ表彰式と入会式及び昼食会を行います。まずこのOB会について説明します。

勿来工業を卒業すると、建築科だけが建築科OB会という会に所属します。皆さんからお預かりした会費は、この会を運営するためのものです。いままで建築科を卒業したOB生は2000名を超えたところです。皆さんは53回目の建築科の卒業生となります。この会はどんなことをしているかを分かってもらうために、毎年6月に総会を開いております。その内容は、みなさんの手元にある、事務局だよりによって知ることができます。それを開いてみると議案書と言う欄があり、そこに活動内容や会費の使い方などが掲載されています。今年も6月には総会がありますが、幹事から案内の連絡がありますのでふるって参加してください。OB会活動のひとつに、「卒業設計コンペ審査会」があります。今日はOB会入会式と合わせて、この表彰式を行い、そして先輩の体験談を2、3名に話していただき、昼食会を行いたいと思います。昼食会はOB会で弁当を用意しました。一緒に食事をしながら、団欒ができればいいですね。これから、OB会会長の挨拶、表彰式、コンペ作品の講評、先輩の談話、そして昼食会という順で進めていきますので、よろしくお願いたします。

- ① 7回生、福富大祐OB会会長挨拶。
 - ② 表彰式(最優秀賞1、優秀賞3、佳作3、特別賞3名)
 - ③ 全員へ卒業設計コンペ作品集冊子配布
 - ④ 14回生、高原典宏事務局長、作品の講評。
 - ⑤ 10回生、小野真人さん、体験談。
 - ⑥ 21回生、四家康正さん、体験談。
 - ⑦ 10回生、私からもおはなしします。
- 以上でOB会入会式と設計コンペ表彰式を終わります。続いて昼食会にします。富樫会長挨拶全文

卒業おめでとうございます。私事ですが高校進学を決める時、建築に関するものに携わっていきたくないと何となく考え、住まいが植田で、また地元がこの学校があり入学をした。ここで建築を学んで面白さを感じ、一生の仕事としていままで進んできた。目まぐるしい世の中ですが自分の一生の事を決める時に、慌てないでゆっくり、しかし確実に自分のやっていく仕事を決められたらいいと思います。今日までと明日からと大きく違うところをひとつだけお話ししたいと思います。今日までは、どんな言葉を使っても、どんな態度をとっても、全て学校と家庭との間の事でしかなかった。社会と言う厳しい現実からは守られていた。ところが明日からは、自分の言葉、自分のふるまい、自分の考え方は、全て自分で責任を持たなければならない。それが社会に評価されることになる。それが大きく違うことです。皆さんはまだまだ未熟なことばかりです。これから迷うことも多いでしょう。挫折することたくさんあると思う。その時にOB会の先輩を巻き込んでもらいたい。この建築科を卒業した先輩は2000名います。その半分以上がいわきで生活をし、建設関係やそれ以外の仕事に従事しています。その先輩を気軽に声をかけてもらっていいと思います。必ず相談に乗ってくれと信じています。明日から責任を持った生活が待っていますが、困ったことがあったら先輩を頼ってください。これから卒業設計作品の表彰式と講評を行います。皆さんの作品を見て感じたことは、非常に感受性の鋭い人達だと思いました。ここ数年で一番感受性が強いのではないのでしょうか。その原因を追究してみた時に、あなたたちが意識するしないにかかわらず、中学生時代に東日本大震災を経験して、復興が動きだして落ち着き始めた時に建築科に入学された。その社会の流れで育ってきた感性が自然に自分達に現れている。それが何かを表現したいと言う方向に結びついている。プロボーザルという言葉がありますが、皆さんは自分を表現する力を持っている。自分が何をしたいかどんどん表現してもらいたい。今後に期待します。